

RESASの地域経済データ

当地域において真に稼げる産業や事業者に対し、限られたマンパワーや政策資源を集中投下し、効率的な経済活性化を目指すため、経営指導員等が「RESAS」(地域経済分析システム)を活用し、以下のマップから、地域の経済動向の把握を行った。

●各マップから把握できる事項

マップ	把握できる事項
地域経済循環マップ・生産分析	洋野町の地域経済は何で稼いでいるか等
まちづくりマップ・From-to分析	洋野町における人の動き等
産業構造マップ	洋野町の産業の現状等

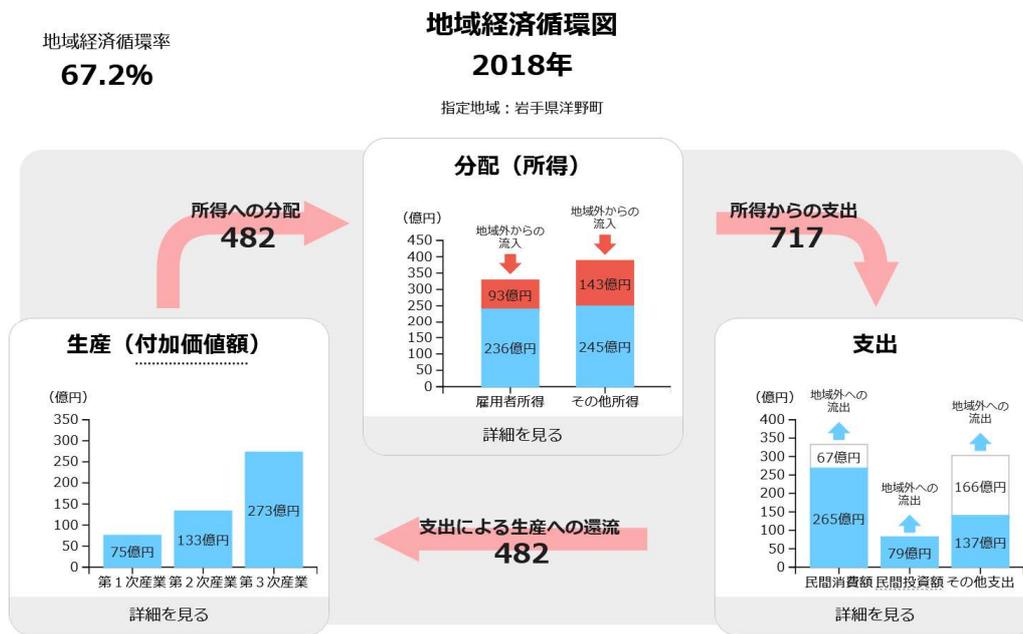
1. 地域経済循環マップ・生産分析

地域経済循環率(生産/分配)については、2018年データでは67.2%となっています。また、生産(付加価値額)では、第3次産業が56.7%を占めています。

分配では、「雇用者所得(住民の賃金や給料等)」で93億円が他地域からの流入となっています。

支出をみると、住民の消費等を示す「民間消費額」では、67億円が地域外に流出しています。また、企業の設備投資等を示す「民間投資額」では、2億円が他地域へ流出しています。「その他支出」とは、政府支出と地域産業の移輸出入収支額等が含まれていますが、マイナスとなっています。

(1)全体図

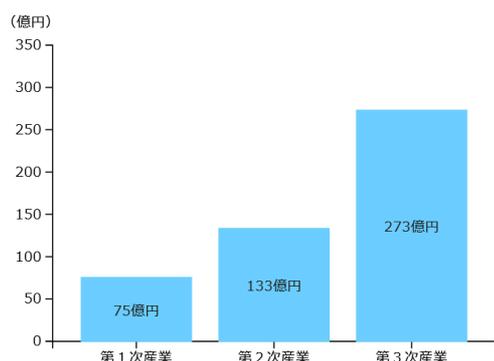


(2)生産(付加価値額)について

「生産(付加価値額)」では、地域が生産した商品やサービス等を販売して得た金額から、原材料費や外注費といった中間投入額を差し引いた付加価値額を把握することができます。地域の第1次産業、第2次産業、第3次産業を付加価値額のグラフで比較することが可能です。

加えて、地域の当該産業の従業者一人当たりの付加価値額(労働生産性)を表で把握することができます。順位は、都道府県単位では全国47都道府県、市区町村単位は全国1,719市区町村におけるランキングとなっています。

生産（付加価値額）



	第1次産業	第2次産業	第3次産業
付加価値額 (一人当たり)	555万円	1,119万円	1,033万円
付加価値額 (一人当たり) 順位	90位	467位	167位

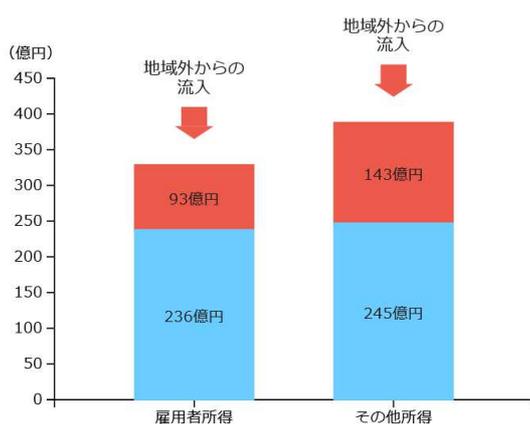
(3) 分配について

「分配（所得）」では、地域産業が稼いだ付加価値額がどのように所得として分配されたかを把握することができます。「分配（所得）」は、雇用者に支払われた「雇用者所得」と、財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等、雇用者所得以外の「その他所得」で構成されます。各棒グラフは、地域内の住民・企業等に分配された所得の総額を示しています。

地域内の住民・企業等が稼ぐ所得より、地域の産業が分配する所得が少ない場合は、その差額が赤色で表示され、地域外から所得が流入していることを意味します。逆に、地域内の住民・企業等が稼ぐ所得より、地域の産業が分配する所得が多い場合は、その差額が空白の四角で表示され、所得が地域外に流出していることを意味します。

下記の表は、従業者一人当たり雇用者所得及び人口一人当たりその他所得を表で把握することができます。表に記載されている順位は、都道府県単位では全国47都道府県、市区町村単位は全国1,719市区町村におけるランキングとなっています。

分配（所得）



	雇用者所得	その他所得
所得 (一人当たり)	210万円	248万円
所得 (一人当たり) 順位	944位	649位

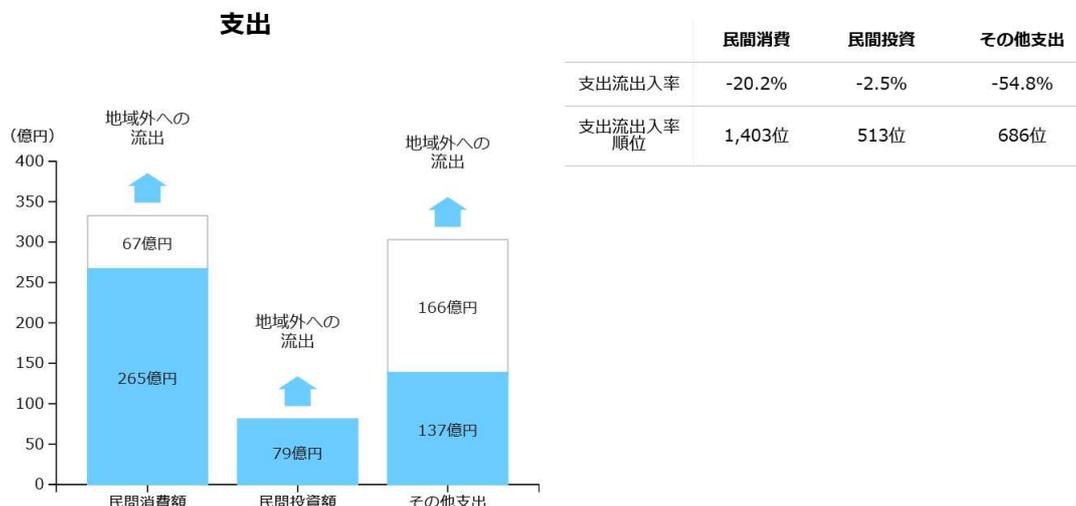
(4) 支出について

「支出」では、地域内の住民・企業等に分配された所得がどのように使われたかを把握することができます。「支出」は、住民の消費等を示す「民間消費額」、企業の設備投資等を示す「民間投資額」、政府支出、地域内産業の移輸出入収支額等を示す「その他支出」で構成されます。各棒グラフは、地域内で消費・投資された金額を示しています。

地域内の住民・企業等が支出した金額より、地域内に支出された金額が少ない場合は、その差額がグラフでは空白の四角で表示され、支出が地域外に流出していることを意味します。逆に、地域内の

住民・企業等が支出した金額より、地域内に支出された金額が多い場合は、その差額が赤色のグラフとして表示され、支出が地域外から流入していることを意味します。

下記の表は、地域内の住民・企業等が支出した金額に対する流出入額の比率を示す「支出流出入率」を把握することができます。表に記載されている順位は、都道府県単位では全国 47 都道府県、市区町村単位は全国 1,719 市区町村におけるランキングとなっています。



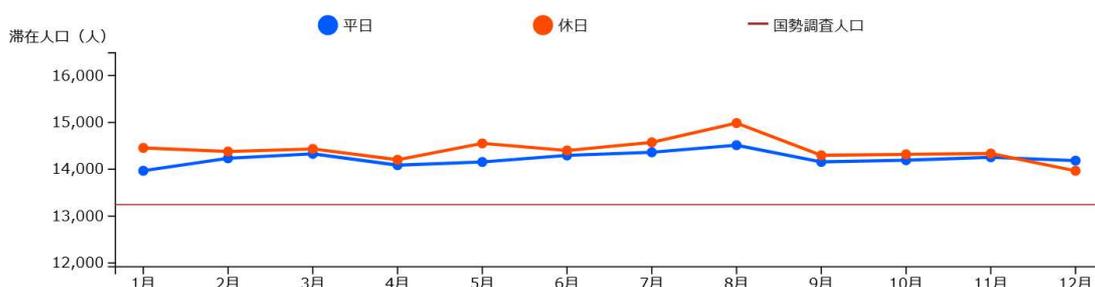
2. まちづくりマップ・From-to 分析

本市内滞在人口の月別推移をみると、平日、休日ともに、午前 4 時には市の人口よりも約 1,050 人多い人口が滞在しているものの、午前 10 時の時点では人口よりも約 800 人程度多く、14 時の時点で約 650 人少なく、20 時の時点で約 680 人以上滞在していることが分かります。

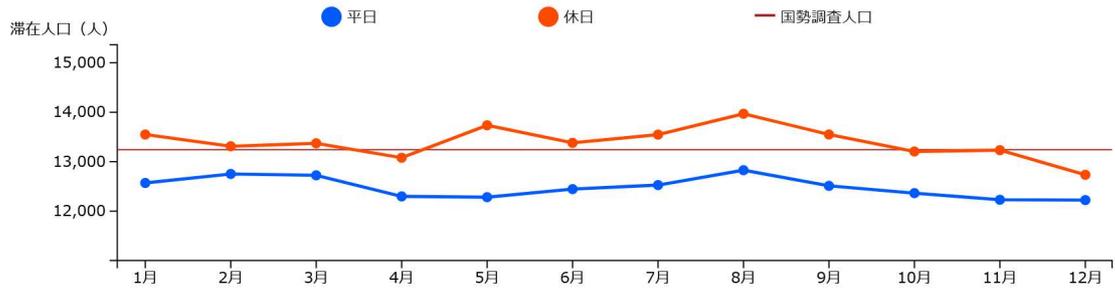
時間による推移を、2021 年 6 月と 2022 年 6 月のデータよりみると、昼間の滞在人口率が低くなっており、滞在人口率が 1.0 を下回っていることが分かります。

そこで、滞在人口を地域別構成割合で見ると、午前 10 時の平日では地域内割合が 93.46%で、その内洋野町の割合は約 89.57%です。休日では地域内割合が 93.58%で、その内洋野町の割合は約 93.82%です。14 時の平日では地域内割合が 93.49%で、その内洋野町の割合は約 92.38%です。休日では地域内割合が 92.38%で、その内洋野町の割合は約 93.75%です。休日 10 時の地域外からの滞在人口は 809 人で、青森県の八戸市、階上町からの滞行者となっています。

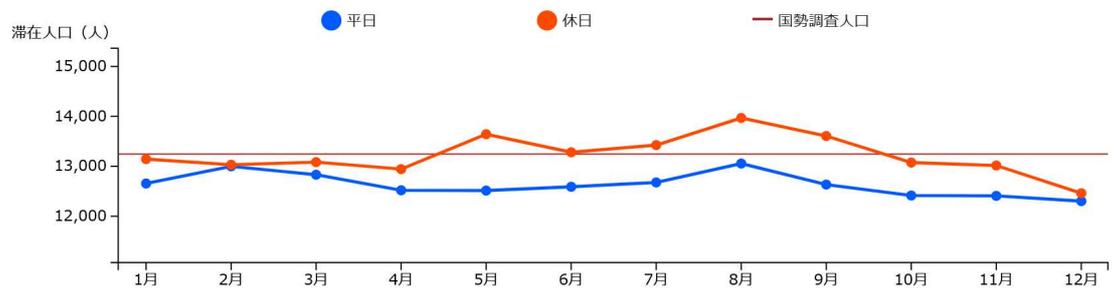
滞在人口の月別推移：岩手県洋野町
 総数（15 歳以上 90 歳未満）／（国勢調査人口：13,244 人）
【2021 年 4 時】



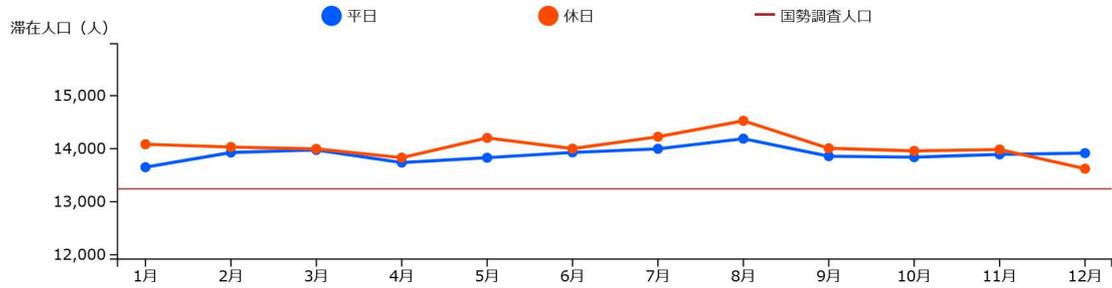
【2021年 10時】



【2021年 14時】



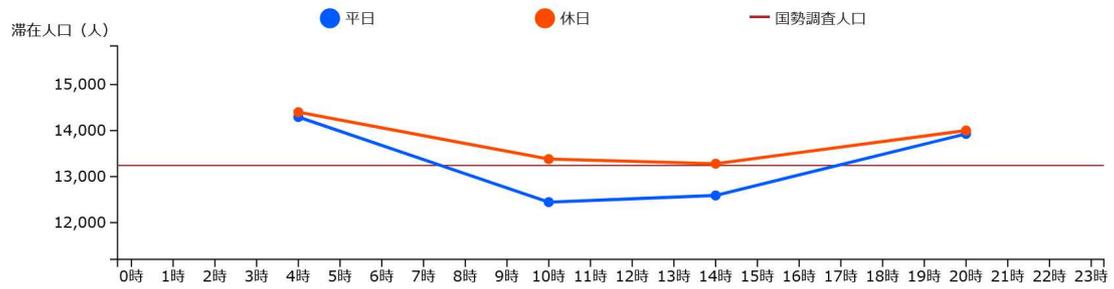
【2021年 20時】



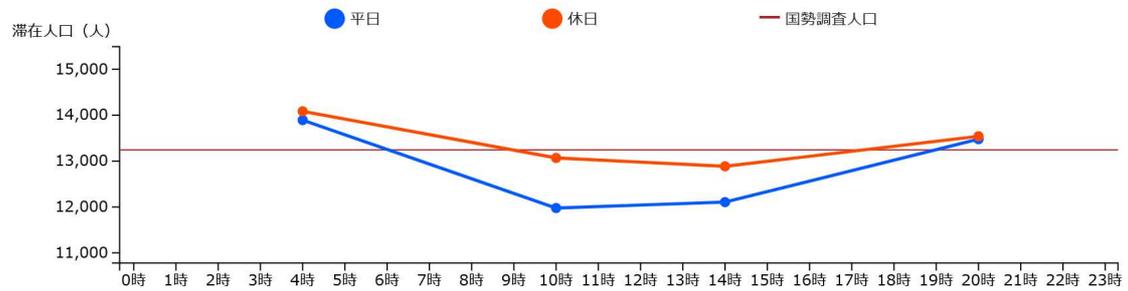
資料：RESAS>まちづくりマップ>滞在人口率

滞在人口の時間別推移：岩手県洋野町
 総数（15歳以上90歳未満）／（国勢調査人口：13,244人）

【2021年6月】



【2022年6月】



資料：RESAS＞まちづくりマップ＞滞在人口率

滞在人口の地域別構成割合〔市町村→市町村〕

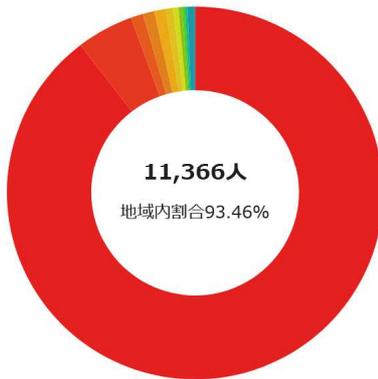
総数（15 歳以上 90 歳未満）

【2022 年 6 月 平日 10 時】

滞在人口合計：12,161 人（滞在人口率：0.92 倍）

（国勢調査人口：13,244 人）

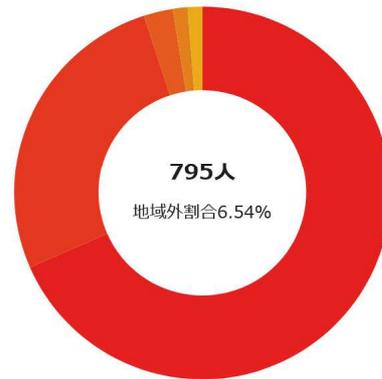
滞在人口 / 都道府県内



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 岩手県洋野町 10,181人 (89.57%)
- 2位 岩手県久慈市 555人 (4.88%)
- 3位 岩手県軽米町 120人 (1.06%)
- 4位 岩手県花巻市 113人 (0.99%)
- 5位 岩手県一戸町 111人 (0.98%)
- 6位 岩手県盛岡市 73人 (0.64%)
- 7位 岩手県普代村 52人 (0.46%)
- 8位 岩手県宮古市 38人 (0.33%)
- 9位 岩手県野田村 24人 (0.21%)
- 10位 岩手県岩泉町 24人 (0.21%)
- その他 75人 (0.66%)

滞在人口 / 都道府県外



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 青森県八戸市 544人 (68.43%)
- 2位 青森県階上町 211人 (26.54%)
- 3位 青森県南部町 20人 (2.52%)
- 4位 青森県むつ市 10人 (1.26%)
- 5位 青森県十和田市 10人 (1.26%)

資料：RESAS>まちづくりマップ From to 分析（滞在人口）

滞在人口の地域別構成割合〔市町村→市町村〕

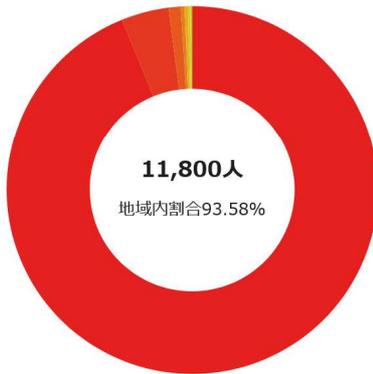
総数（15歳以上 90歳未満）

【2022年6月 休日10時】

滞在人口合計：12,609人（滞在人口率：0.95倍）

（国勢調査人口：13,244人）

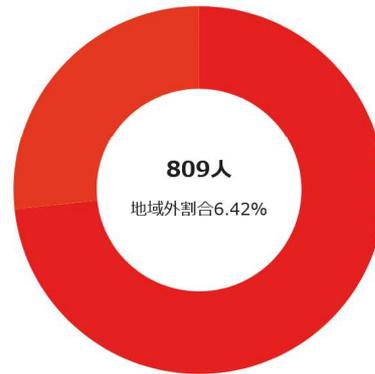
滞在人口 / 都道府県内



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 岩手県洋野町 11,071人 (93.82%)
- 2位 岩手県久慈市 488人 (4.14%)
- 3位 岩手県盛岡市 124人 (1.05%)
- 4位 岩手県軽米町 38人 (0.32%)
- 5位 岩手県野田村 32人 (0.27%)
- 6位 岩手県二戸市 23人 (0.19%)
- 7位 岩手県八幡平市 13人 (0.11%)
- 8位 岩手県九戸村 11人 (0.09%)

滞在人口 / 都道府県外



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 青森県八戸市 593人 (73.30%)
- 2位 青森県階上町 216人 (26.70%)

資料：RESAS>まちづくりマップ From to 分析（滞在人口）

滞在人口の地域別構成割合〔市町村→市町村〕

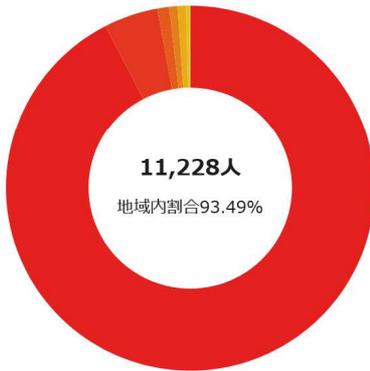
総数（15 歳以上 90 歳未満）

【2022 年 6 月 平日 14 時】

滞在人口合計：12,010 人（滞在人口率：0.91 倍）

（国勢調査人口：13,244 人）

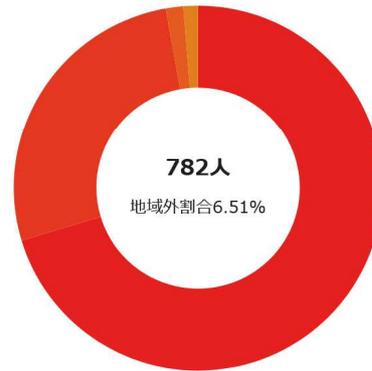
滞在人口 / 都道府県内



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 岩手県洋野町 10,372人 (92.38%)
- 2位 岩手県久慈市 533人 (4.75%)
- 3位 岩手県軽米町 116人 (1.03%)
- 4位 岩手県花巻市 83人 (0.74%)
- 5位 岩手県盛岡市 82人 (0.73%)
- 6位 岩手県二戸市 31人 (0.28%)
- 7位 岩手県滝沢市 11人 (0.10%)

滞在人口 / 都道府県外



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 青森県八戸市 550人 (70.33%)
- 2位 青森県階上町 210人 (26.85%)
- 3位 青森県十和田市 12人 (1.53%)
- 4位 青森県南部町 10人 (1.28%)

資料：RESAS>まちづくりマップ From to 分析（滞在人口）

滞在人口の地域別構成割合〔市町村→市町村〕

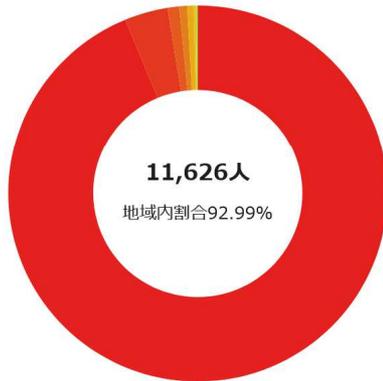
総数（15歳以上 90歳未満）

【2022年6月 休日14時】

滞在人口合計：12,502人（滞在人口率：0.94倍）

（国勢調査人口：13,244人）

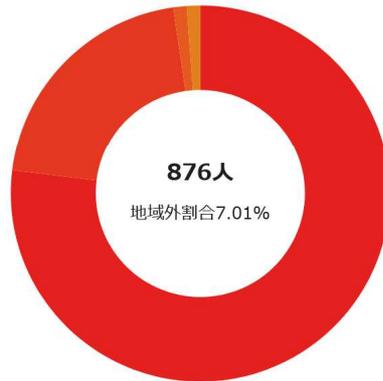
滞在人口 / 都道府県内



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 岩手県洋野町 10,899人 (93.75%)
- 2位 岩手県久慈市 429人 (3.69%)
- 3位 岩手県盛岡市 115人 (0.99%)
- 4位 岩手県軽米町 78人 (0.67%)
- 5位 岩手県田野畑村 64人 (0.55%)
- 6位 岩手県二戸市 20人 (0.17%)
- 7位 岩手県普代村 11人 (0.09%)
- 8位 岩手県遠野市 10人 (0.09%)

滞在人口 / 都道府県外



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 青森県八戸市 674人 (76.94%)
- 2位 青森県階上町 182人 (20.78%)
- 3位 青森県五戸町 10人 (1.14%)
- 4位 青森県むつ市 10人 (1.14%)

資料：RESAS>まちづくりマップ From to 分析（滞在人口）

3. 産業構造マップ

洋野町の産業構造をみると、企業数では「卸売業、小売業」が最も高い割合を占めています。次いで「建設業」です。従業者数でみると「建設業」が最も高くなり、次いで「製造業」、「卸売業、小売業」です。売上高では、「卸売業、小売業」が 33.4%と 1/3 を占めています。付加価値額では「建設業」が 33.1%を占め、次いで「製造業」(19.1%)、「卸売、小売業」(13.3%)となっています。

企業業数、従業者数、売上高、付加価値額で高い割合となった「卸売業、小売業」の年間商品販売額の増減率の推移をみると、2004年に $\Delta 11.7\%$ となっているものの、2007年に $\Delta 6.7\%$ 、2012年に $\Delta 7.5\%$ 、2014年 3.0%、2016年 2.6%と横ばい状態で安定基調にあると言えます。

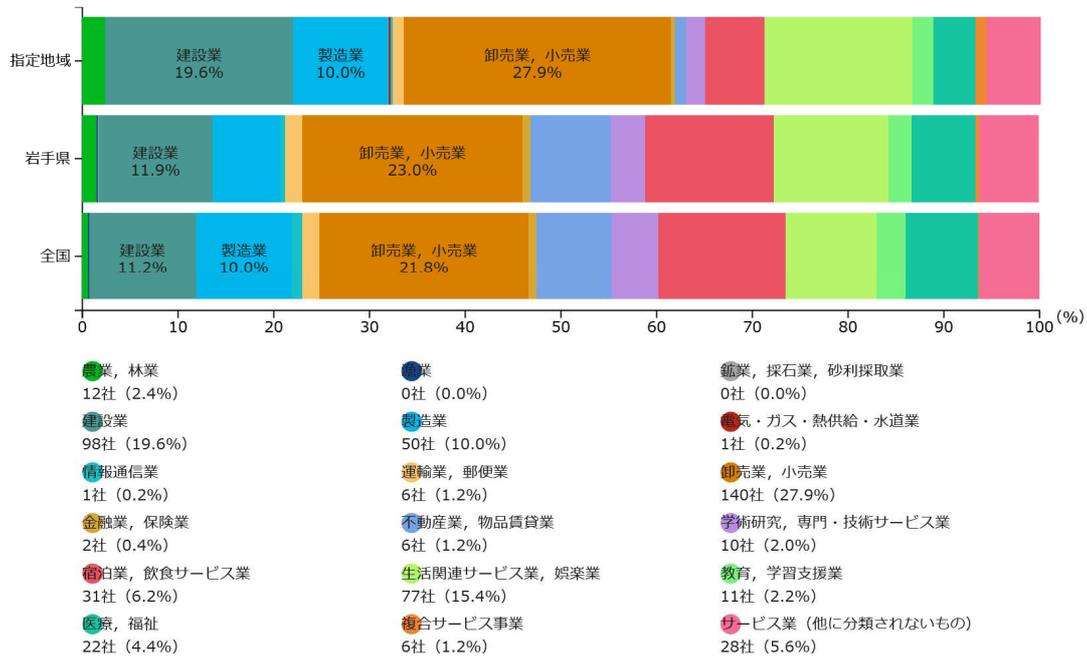
また、産業別特化係数を、「卸売業、小売業」、「建設業」、「製造業」についてみると「卸売業、小売業」では、「飲食料品小売業」と「その他の小売業」が特化しています。「建設業」では、「総合工事業」と「職別工事業」の特化係数が高くなっています。「製造業」では、「木材・木製品製造業（家具をの除く）」、「食料品製造業」の特化係数が高くなっています。

「産業別増減率」を「労働生産性」、「従業員数」、「付加価値額」の3軸でみると、「従業員数」、「付加価値額」共に伸び率が突出している産業は「運輸業、郵便業」です。また、「建設業」と「製造業」の「労働生産性」と「付加価値額」の伸び率が高くなっています。

※産業構造マップについては、2016年の総務省「経済センサス基礎調査」データによる。

企業数(企業単位) 2016年

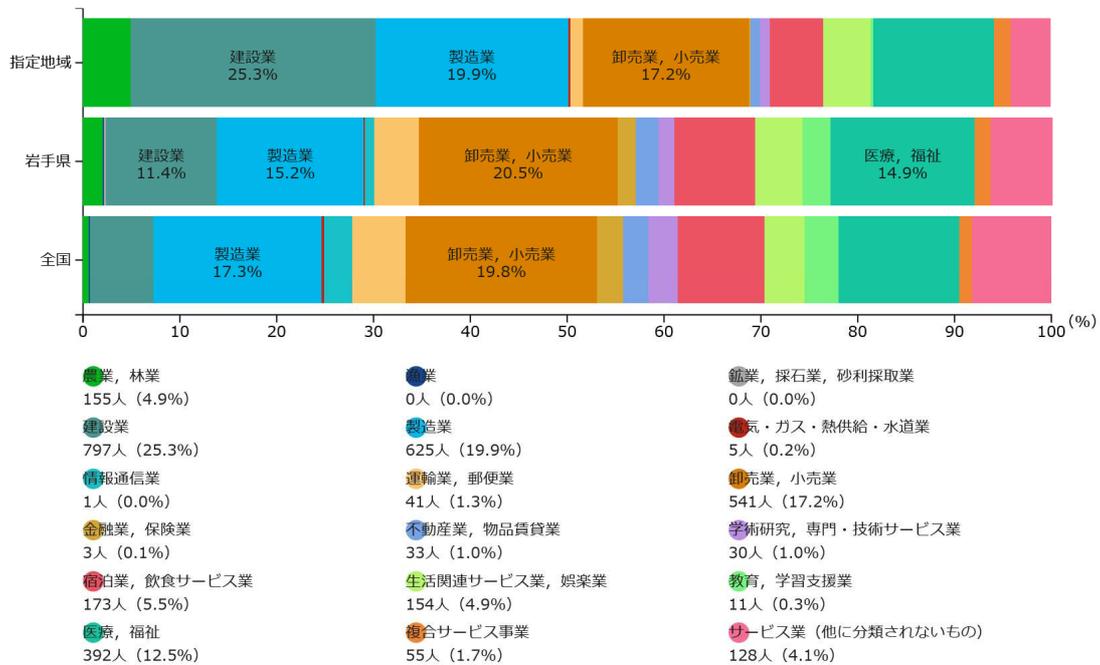
指定地域：岩手県洋野町



【出典】総務省「経済センサス基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

従業者数(企業単位) 2016年

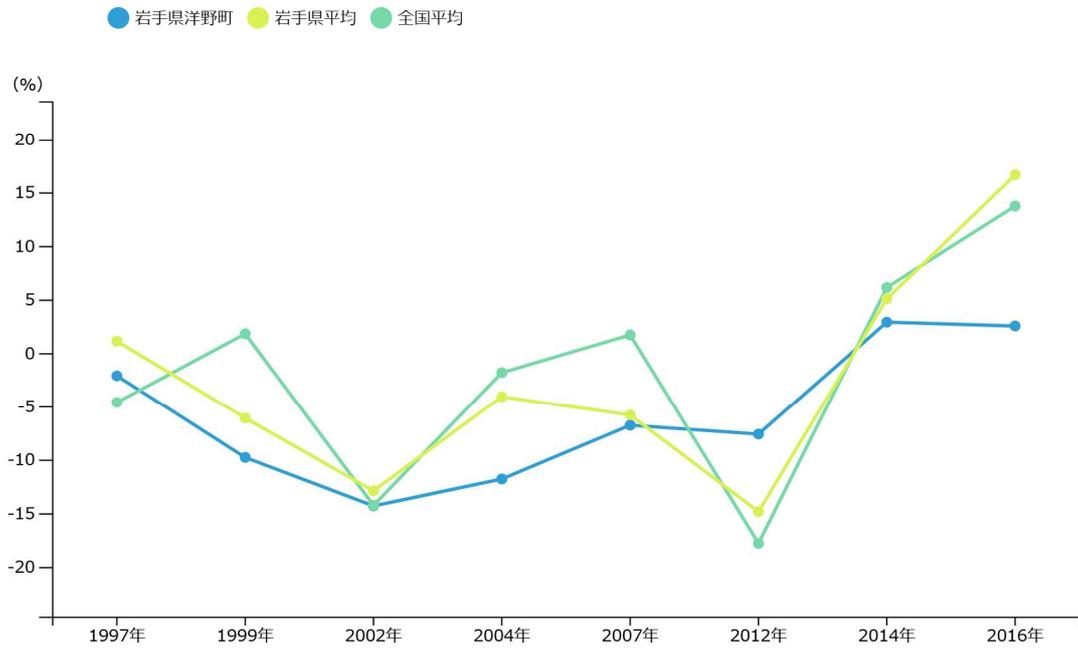
指定地域：岩手県洋野町



【出典】総務省「経済センサス基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

年間商品販売額の増減率

すべての大分類>すべての中分類



【出典】

経済産業省「商業統計調査」

総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

【注記】

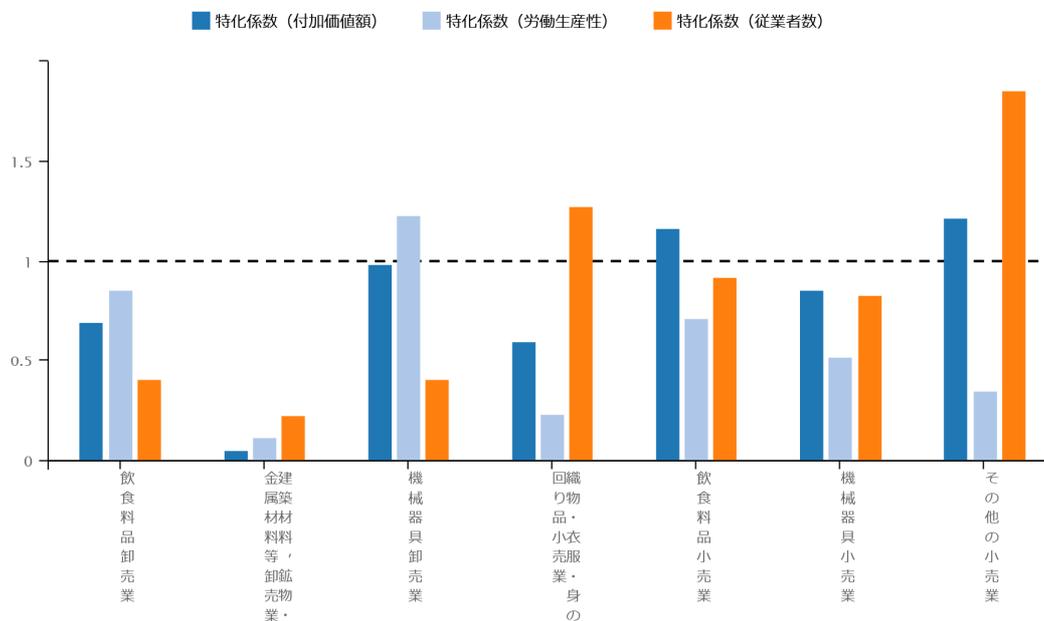
増減率 = (今回調査結果 - 前回調査結果) ÷ 前回調査結果 × 100

資料：RESAS > 産業構造マップ > 小売・卸売業 > 年間商品販売額

【卸売業、小売業】

産業別特化係数 2016年

指定地域：岩手県洋野町
指定産業：卸売業、小売業



【出典】 総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」再編加工

【注記】

特化係数：域内のある産業の比率を全国の同産業の比率と比較したもの。

1.0 を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している産業とされる。労働生産性の場合は、全国の当該産業の数値を1としたときの、ある地域の当該産業の数値。

特化係数の算出式は下記のとおり

- ・「特化係数 (付加価値額)」 = (域内における当該産業の付加価値額 ÷ 域内における全産業の付加価値額) ÷ (全国の当該産業の付加価値額 ÷ 全国の全産業の付加価値額)
- ・「特化係数 (従業者数)」 = (域内における当該産業の従業者数 ÷ 域内における全産業の従業者数) ÷ (全国の当該産業の従業者数 ÷ 全国の全産業の従業者数)
- ・「特化係数 (労働生産性)」 = (域内における当該産業の労働生産性) ÷ (全国の当該産業の労働生産性) 労働生産性 = 付加価値額 (企業単位) ÷ 従業者数 (企業単位)

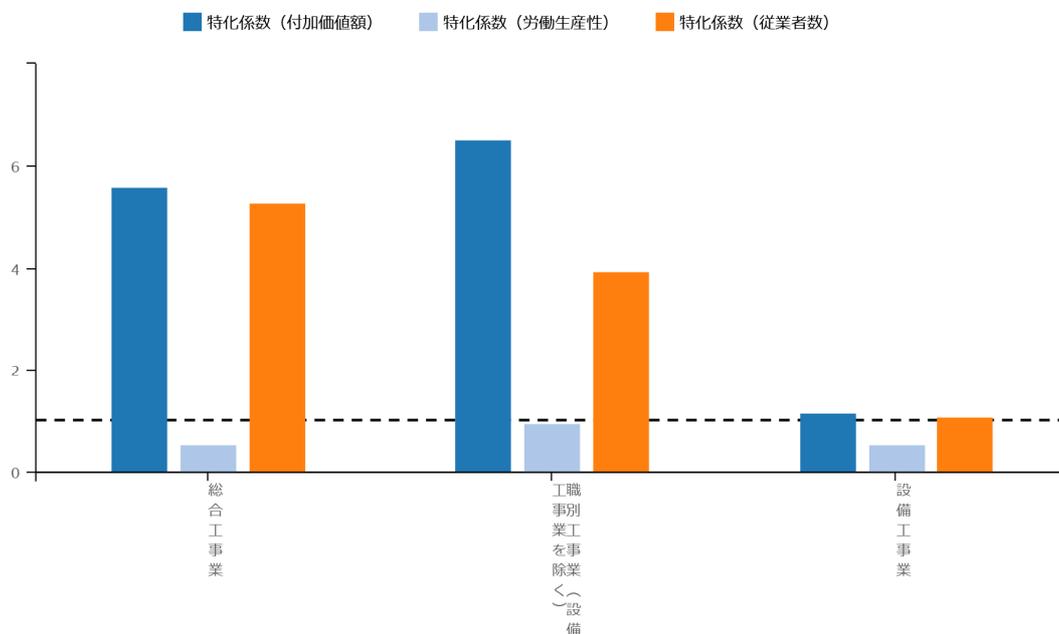
資料：RESAS > 産業構造マップ > 全産業 > 稼ぐ力分析

【建設業】

産業別特化係数

2016年

指定地域：岩手県洋野町
指定産業：建設業



【出典】総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」再編加工

【注記】

特化係数：域内のある産業の比率を全国の同産業の比率と比較したもの。

1.0を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している産業とされる。労働生産性の場合、全国の当該産業の数値を1としたときの、ある地域の当該産業の数値。

特化係数の算出式は下記のとおり

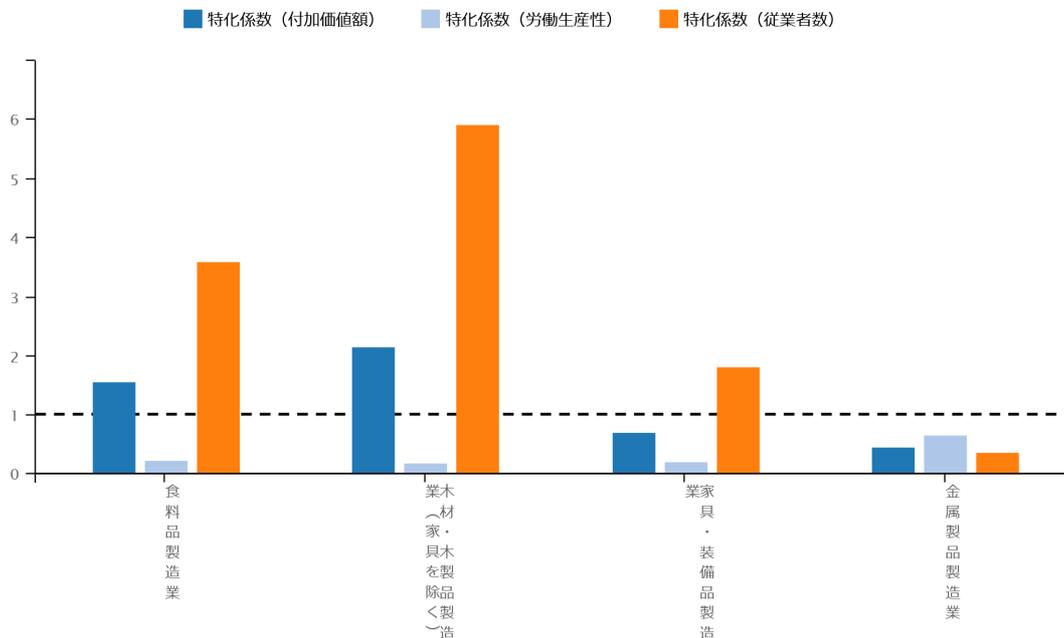
- ・「特化係数（付加価値額）」＝（域内における当該産業の付加価値額÷域内における全産業の付加価値額）÷（全国の当該産業の付加価値額÷全国の全産業の付加価値額）
- ・「特化係数（従業者数）」＝（域内における当該産業の従業者数÷域内における全産業の従業者数）÷（全国の当該産業の従業者数÷全国の全産業の従業者数）
- ・「特化係数（労働生産性）」＝（域内における当該産業の労働生産性）÷（全国の当該産業の労働生産性）
労働生産性＝付加価値額（企業単位）÷従業者数（企業単位）

資料：RESAS > 産業構造マップ > 全産業 > 稼ぐ力分析

【製造業】

産業別特化係数 2016年

指定地域：岩手県洋野町
指定産業：製造業



【出典】 総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」再編加工

【注記】

特化係数：域内のある産業の比率を全国の同産業の比率と比較したもの。

1.0を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している産業とされる。労働生産性の場合、全国の当該産業の数値を1としたときの、ある地域の当該産業の数値。

特化係数の算出式は下記のとおり

- ・「特化係数 (付加価値額)」 = (域内における当該産業の付加価値額 ÷ 域内における全産業の付加価値額) ÷ (全国の当該産業の付加価値額 ÷ 全国の全産業の付加価値額)
- ・「特化係数 (従業者数)」 = (域内における当該産業の従業者数 ÷ 域内における全産業の従業者数) ÷ (全国の当該産業の従業者数 ÷ 全国の全産業の従業者数)
- ・「特化係数 (労働生産性)」 = (域内における当該産業の労働生産性) ÷ (全国の当該産業の労働生産性) 労働生産性 = 付加価値額 (企業単位) ÷ 従業者数 (企業単位)

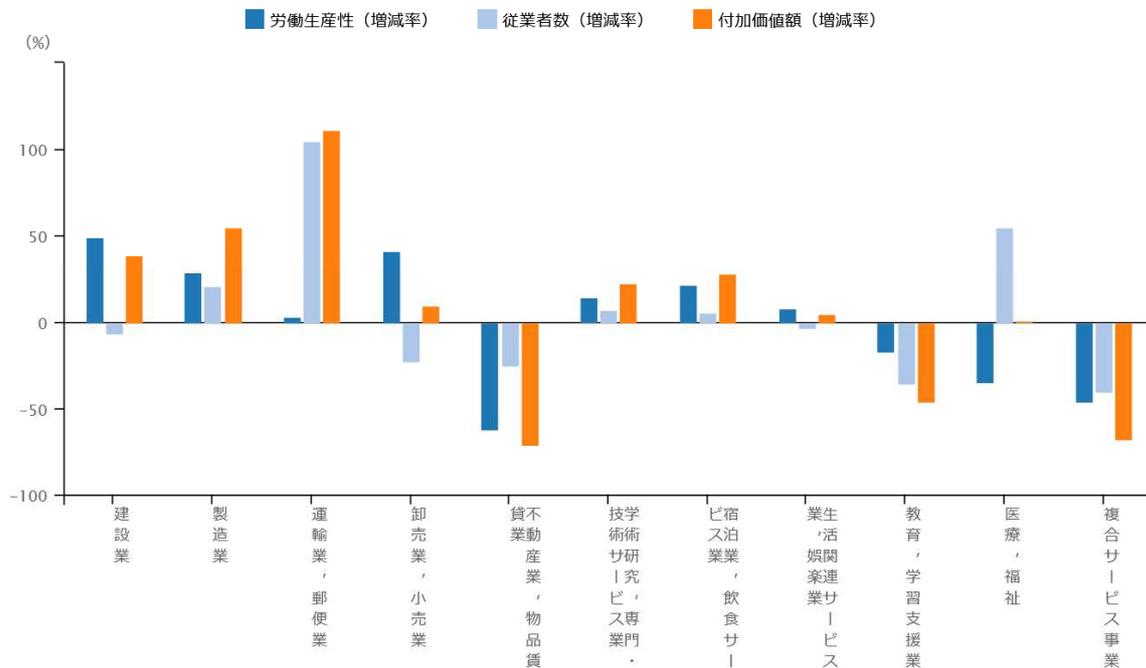
資料：RESAS > 産業構造マップ > 全産業 > 稼ぐ力分析

【全業種・産業別増減率】

産業別増減率

岩手県洋野町

2012年⇒2016年



【出典】

総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

【注記】

- ・従業者とは、当該企業、事業所に所属して働いている全ての人をいう。したがって、他の会社などの別経営の事業所へ出向又は派遣している人も含まれる。一方、当該企業、事業所で働いている人であっても、他の会社などの別経営の事業所から出向又は派遣されているなど、当該企業、事業所から賃金・給与（現物給与を含む。）を支給されていない人は従業者に含めない。

なお、個人経営の事業所の家族従業者は、賃金・給与を支給されていなくても従業者としている。

- ・労働生産性、従業者数、付加価値額それぞれの増減率は、以下の計算に基づいて算出している。

$$\text{増減率 (\%)} = (\text{比較時の値} - \text{基準時の値}) \div \text{基準時の値} \times 100$$

※例：2012年から2016年の労働生産性の増減率の場合、以下の計算に基づいて算出している。

$$\text{労働生産性の増減率 (\%)} = (\text{2016年の労働生産性} - \text{2012年の労働生産性}) \div \text{2012年の労働生産性} \times 100$$

資料：RESAS > 産業構造マップ > 全産業 > 稼ぐ力分析